

trivia ■皮膚科のトリビア■ 146

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きしたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

Julius Wagner-Jauregg の功績とは

第12回神奈川肛門疾患懇談会から（平成28年9月15日）

ユリウス・ワーグナー＝ヤウレックは1857年生まれのオーストリア人の医師で、専門は精神科および神経病理学。1927年度のノーベル生理学・医学賞を受賞した。その受賞理由は「麻痺性痴呆に対するマラリア接種の治療効果の発見」。当時、発症するとその60%が死に至っていた神経梅毒に対して、三日熱マラリアの原虫を接種することで42℃の発熱を誘発し、トレポネーマを死滅させる治療法を実践した。

「これは知らなかった。100年前の医学・医療には驚くような視点がある。たまにはこういう話もためになって、ありがたい」。

梅毒の長期自然経過とタスキギー(Tuskegee)梅毒実験

第12回神奈川肛門疾患懇談会から（平成28年9月15日）

梅毒を治療せず、放置することで生じる結果についての検討。40年の長期観察の結果、399人の末期梅毒患者のうち、梅毒が原因の直接死亡が28人(7%)、梅毒の合併症での死亡が100人(25%)、パートナーへの感染が40人(10%)、期間中出生した40人の新生児のうち、先天梅毒が19人(48%)であった。

「ということで、これはアメリカ合衆国公衆衛生局が1932年から40年間にわたってアラバマ州で行った悪名高い人種差別的疾病人体実験であった。生命倫理上の重大事件として、知っておく必要がある。ちなみにクリントン大統領が1997年に被害者に対して正式な謝罪を行ったとのこと」。

Kathon CGは空気伝達 する可能性がある

横浜市皮膚科医会第145回例会から（平成28年10月20日）

Kathon CGはイソチアゾリン系の防腐剤で、2004年以降クリームや乳液のような洗い流さなくてもよい化粧品にも使用が可能となり、アレルギー性接触皮膚炎の発症が増加した。また、この製品は細菌、真菌、酵母などに強い殺菌効果を示すため、顔面のパックや冷感タオルなどに多く含まれている。最近とくに冷却パッドの使用による重篤な接触皮膚炎の症例が増加している。発症機序として、内側含水ジェルのカビ汚染対策のために含まれている同成分が、製品の内部から表面生地に漏出するためと考えられている。ちなみに、Kathon CGは空气中に飛散する可能性があり、接触していない部位にも接触皮膚炎を生じることがある。「Kathon CGは2016年のallergen of the yearになったとのこと。漏出しないような、充分な加工が必要だろう」。

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス：

<http://www.asai-hifuka.com>

Bregと乾癬, IL-10, メタボリックシンドロームの関連

第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会から(平成28年10月29日)

B細胞の一部は主に抑制性サイトカインであるIL-10を産生することで過剰な免疫応答を負に制御する機能をもつ制御性B細胞(Breg)として働くことが明らかにされてきた。Bregは直接Th1, Th2などのエフェクターT細胞の活性化を抑制する、あるいはTregの分化誘導に関わるものと考えられている。乾癬のマウスモデルではIL-10産生Bregの減少により皮膚病変が重症化し、Bregの移植で皮膚病変が改善する。また、脂肪組織中にはIL-10を産生するBregが多数存在しており、これが脂肪組織における炎症反応を抑制するが、肥満したマウスでは脂肪組織におけるBregの数が減少しておりメタボリックシンドロームの発症に寄与している。

「最近発売された乾癬の内服治療薬であるオテズラは、IL-10を増加させる働きがある。また、内服の継続で体重が減少するらしい。Bregの働きと関連がありそうだ」。

で、アスペルギルス症などの内臓真菌症に高い効果があるが、光線過敏症の副作用の頻度が高く、紅斑、皮膚炎などの炎症性皮膚病変のみならず、露光部位に光線角化症や有棘細胞癌をきたす例がある。もっとも多くのケーススタディでは36例の有棘細胞癌が報告され、うち3例が有棘細胞癌のために死亡している。

「薬剤の光毒性で光線性皮膚癌が生じるといのはかなり衝撃的だった。UVB照射によって光分解物が生じ、それにUVAを照射すると活性酸素が放出されるとのこと。皮膚科医が知っておかなければならない副作用である」。

ポリコナゾールによる光線性皮膚癌

第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会から(平成28年10月30日)

ポリコナゾールはアゾール系の抗真菌薬

